

「福祉サービス第三者評価」等を踏まえたサービス改善計画・実施状況

施設名	瑞学園	受審(実施)年度 (※)	平成 29 年度	施設番号	41 - 0024
-----	-----	-----------------	----------	------	-----------

※第三者評価または利用者調査実施の年度

項目	評価結果に基づく現状分析 (平成 29 年度)	改善計画 (平成 29 年度末時点)	実施状況(予定を含む) (平成 30 年 4 月 30 日時点)	左記実施状況に実施予定があった場合の実施状況 (平成 30 年 4 月 30 日時点)
職員全体に対し、取り組みやその成果についての伝達・共有について	利用者の問題行動の改善や適応行動の促進プログラムについて、紙面にて全体周知を行っているが、引き継ぎ会や組会議等での振り返りをより充実させる必要があると考える。今後は、引き継ぎ会にて「ケース研究」や「毎月の支援目標」の達成具合について、振り返りと対応法を検討する機会を設ける。	毎月の支援目標について支援室に掲示し、職員全体への浸透を試みる。かつ、引き継ぎ会にてその日の具体的取り組みとその成果を発表する場を設ける。	① 実施済み ・引き継ぎ会での振り返り ・支援目標達成具合について組会議でも職員間で情報交換を行う 2 実施予定 (平成 年 月ごろ)	1 実施済み (平成 年 月)
個別支援計画内容の具体化と実際の支援での取り組みについて	個別支援計画の内容について担当職員が十分に把握する。またその計画に基づき、日々の支援で具体的にどのような取り組みを行っていくかを職員間で共有できるような情報伝達に努める必要があると考える。また、担当職員が計画面談に出席し、利用者本人、ご家族の要望を細やかに聞く機会を設ける。	利用者個人のケース記録に個別支援計画内容について分かりやすく記載する。 毎月の組会議で日々の支援での取り組みの振り返りを行う。 個別支援計画の面談に担当職員(支援員)が積極的に同席する。	① 実施済み ・組会議でのケース検討 ・計画面談に計画的に職員(支援員)が同席する 2 実施予定 (平成 年 月ごろ)	1 実施済み (平成 年 月)
利用者の高齢化に伴う職員の介護力・健康管理能力の向上について	利用者全体の高齢化に伴い、感染症等の病気、転倒による事故、怪我等に対し、より一層の配慮と専門的知識、技術が職員に求められている。その点に関して、定期的な職員研修を実施し、具体的な対応法を周知する場を頻繁に設ける必要があると考える。	利用者個々の持病や過去の病気、怪我等の情報共有を今一度行う。 ボディメカニクスの研修を実施し、体の仕組みや動かし方について学ぶ機会を設ける。 高齢化に伴い、食事介助の仕方も見直しが必要であり、実践研修を定期的に行う必要がある。	1 実施済み ② 実施予定 (平成 30 年 6~7 月ごろ) ・左記の研修を6~7月に行う。今後も支援状況に応じて定期的に行う。	1 実施済み (平成 年 月) 具体的には以下のとおりです。

※この様式は、「東京都民間社会福祉施設サービス推進費補助金交付要綱」等の規定に基づき、利用者の皆様にお知らせするためのものです。

※「項目」は、第三者評価における「さらなる改善が望まれる点」などを参照に、施設が独自に決めています。

※第三者評価(又は利用者に対する調査)の結果は、施設において公表しているほか、「とうきょう福祉ナビゲーション」によりインターネットでも閲覧できます。